



人権平和資料館だより

2020年(令和2年)1月

HUMAN RIGHTS & PEACE 第264号

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1

TEL 924-6789 FAX 924-6850

人権と平和は

21世紀のキーワード

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

反戦画家四國五郎の世界 ～第一部シベリア抑留編～

期間 1月17日(金)～3月25日(水)



太平洋戦争後にソ連やモンゴルに強制抑留された日本人が約57万5千人いました。抑留者たちは、乏しい食糧や体験したことのない寒さ、過酷な労働のなかで、生きて日本に帰ることを願い、耐え続けました。

今回の企画展では3年間の抑留生活を体験した四國五郎をとりあげます。四國は、抑留の途中からは宣伝部の一員として絵や文章を作らされていました。

1948年の秋に帰国した四國は、隠して持ち帰った「豆日記」などを基に、記憶の新しいうちにと、翌年には絵と文章で約1000ページに及ぶ「わが青春の記録」の作成を始めました。このうち、約半分がシベリア抑留関係のものでした。

シベリア抑留の絵画は、1991年と1994年の2度のシベリア墓参・鎮魂の旅を契機に描かれました。

本展では、油彩画や水彩の抑留絵画を中心に、抑留時代に使っていた飯盒や手製のリュックサック、靴などの実物資料を展示します。

墓標建立(コスGRAMボ) 1993年(後期)

四國は、1991年10月4日から11日までの第二次墓参・慰霊の旅に参加した。この時、ムリー地区のコスGRAMボの埋葬地に「鎮魂の墓標」を建てた。四國はそこに亡くなった戦友たちの幻を感じた。

福山市人権平和資料館企画展関連行事

講演会 「父，四國五郎を語る」

講師 四國 光 さん 四國五郎 長男

入場無料

■日時 2月2日(日) 午後1時30分～

■場所 福山市人権平和資料館



父，四國五郎は，約3年間シベリアに抑留され，公の全ての記録はソ連により剥奪されましたが，父は，生死を彷徨う体験をしながらも，自分で豆のようなノートを作り，それに克明に記録を取り，靴の中に入れて密かに日本に持ち帰りました。また，自らの飯盒にシベリアの仲間達の名前を60名近く彫りこみ，その上からペンキを塗り文字を隠し，日本に持ち帰りました。シベリアから記録を持ち帰ることはスパイ罪と見なされ，厳しく制限されていましたが，父は持ち帰ることに成功しました。シベリア抑留者の中で，父のように，豆のような日記や名前の彫りこまれた飯盒，およびスケッチまでを日本に持ち帰った例は，他にないと言われています。



名前の彫り込まれた飯盒



豆日記を隠した軍靴

講演会 「遺骨収集から見たシベリア抑留の実相」

講師 日本戦没者遺骨収集推進協会

専務理事 竹之下 和雄さん

入場無料

■日時 3月8日(日) 午後1時30分～

■場所 福山市人権平和資料館

※福山市人権平和資料館・備後遺族会館共催事業

講師プロフィール



1962年 厚生省入省 援護局業務第1課配属

1983年 財団法人中国残留孤児援護基金設立に参画

1986年 厚生省援護局庶務課 中国残留孤児対策班長

1993年 厚生省社会・援護局 中国孤児等対策室長

1998年 厚生省社会・援護局 業務第一課長

2000年 厚生省退官

(財)中国残留孤児援護基金 常務理事に就任

2005年 (財)大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会 監事

2007年 (財)中国残留孤児援護基金 顧問 (現在に至る)

2016年 (一社)日本戦没者遺骨収集推進協会 専務理事 (現在に至る)